

I. 中国の青花と五彩

番号	名称	窯	摘要	国・時代	法量(cm)
1	青花双魚文大皿	景德鎮窯		中国・明初期	高8.8 径53.5
2	青花牡丹唐草文面盆	景德鎮窯	「大明宣徳年製」銘	中国・明	高14.0 径35.0
3	黄地青花花文皿	景德鎮窯	「大明弘治年製」銘	中国・明	高4.5 径25.0
4	赤絵牡丹蓮華唐草文鉢	景德鎮窯	「大明宣徳年製」銘 重要美術品	中国・明	高11.5 径28.2
5	赤絵楼閣山水文碗		宣徳頃 雲堂手	中国・明前期	高6.5 径9.2
6	萌黄地牡丹文金襴手碗	景德鎮窯	「萬福攸同」銘	中国・明	高6.0 径12.0
7	五彩花鳥文小壺	景德鎮窯	「大明萬曆年製」銘	中国・明後期	高9.2 胴径11.2
8	赤絵七宝繫蓮華文小壺			中国・明	高6.1 径6.7
9	青花梅文皿		「天啓年製」銘 古染付	中国・明末期	高2.6 径21.8
10	五彩双鳳文皿		「天啓年製」銘	中国・明末期	高3.4 径16.5
11	五彩柘榴文角皿	景德鎮窯	天啓頃	中国・明末期	高4.3 幅20.4
12	赤絵羅漢文皿	景德鎮窯	天啓頃	中国・明末期	高4.0 径20.2
13	青花富士山形平鉢	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高4.8 幅27.7
14	青花鹿文香炉	景德鎮窯	特別出陳 京都国立博物館蔵	中国・明末期	高7.7 口径9.0 底径6.8
15	青花栗鼠山査子文鉢	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高6.0 径19.5
16	青花角皿	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高4.0 幅22.5
17	青花硯	景德鎮窯	「崇禎五年(肆月)壬申錢成□□用」銘(1632) 古染付	中国・明末期	高6.5 長18.5
18	青花花卉文角瓶	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高25.8 幅10.8
19	赤絵市松文角瓶	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高19.5 幅7.3
20	青花柘榴形水滴	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高6.0 長9.0
21	青花桔梗形香合	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高4.5 径4.6
22	青花魚藻文輪花盃	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高4.0 径8.5
23	青花寒鴉枯木文盃	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高3.4 口径5.2
24	青花釉裏紅鸚鵡文碗	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高6.7 径9.6
25	五彩網目魚文碗	景德鎮窯	古染付	中国・明末期	高7.7 径9.9
26	青磁刻花扇文碗	景德鎮窯	「五良大甫吳祥瑞造」銘 祥瑞	中国・明末期	高9.2 径11.8
27	青花漁夫文盃	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高6.1 口径6.8
28	瑠璃釉瓢形德利	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高19.0 径8.6
29	五彩縞文小鉢	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高6.8 径12.0
30	五彩花文三脚燭台	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高8.3 長19.7
31	青花花鳥文皿	景德鎮窯	「大明成化年造」銘 祥瑞	中国・明末期	高4.5 径23.5
32	五彩兔鶴文皿	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高3.5 径20.0
33	五彩花鳥文大皿	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高5.5 径34.5
34	青花文字文鉢		吳須	中国・明末期	高13.4 径24.5
35	青花龍文四耳壺		吳須	中国・明末期	高35.0 胴径28.5
36	五彩双龍文大皿	漳州窯	吳須	中国・明末期	高10.0 径38.7
37	五彩山水印判文大皿		吳須	中国・明末期	高10.0 径39.0
38	五彩花卉文碗	景德鎮窯	2点 「東園製」銘	中国・清	(各)高6.2 径10.3
39	五彩花鳥文大鉢	景德鎮窯		中国・清前期	高17.0 径34.0
40	五彩花鳥文皿	景德鎮窯		中国・清	高6.4 径35.2
41	五彩花卉文角瓶	景德鎮窯		中国・清	高26.7 幅9.9
42	青花蓮華唐草文瓶	景德鎮窯		中国・清	高10.0 胴径9.6
43	五彩扇文小皿	景德鎮窯	7点 伊万里写	中国・清	(各)高2.2 径11.7

II. 日本 of 染付: 中国陶磁の写しと展開

番号	名称	窯	摘要	国・時代	法量(cm)
44	染付山水文大皿	有田(伊万里)	重要文化財	日本・江戸前期	高12.5 径45.4
45	染付草花文大皿	有田(伊万里)		日本・江戸前期	高10.8 径45.4
46	染付唐草文水指	有田(伊万里)		日本・江戸前期	高17.2 口径11.2
47	藍絵山水花卉文角德利	有田(伊万里)		日本・江戸前期	高25.0 幅12.5
48	色絵山水花鳥文大皿	有田(古九谷様式)		日本・江戸前期	高7.4 径38.8
49	色絵更紗文皿	有田(鍋島)		日本・江戸中期	高3.9 径15.0
50	色絵花籠文八角小鉢	有田(柿右衛門)	「元禄八乙亥 柿」銘(1695)	日本・江戸中期	高5.5 径12.5
51	色絵牡丹鳳凰文角鉢子	有田(柿右衛門)		日本・江戸中期	高16.0 全長19.0
52	色絵梅文把手瓶	有田(伊万里)		日本・江戸中期	高17.5 胴径12.8
53	染付草花文芥子入	有田(伊万里)		日本・江戸中期	高11.5 全幅10.2
54	染付山水文八角鉢	長崎(龜山焼)	6客	日本・江戸後期	(各)高3.7 幅14.7
55	染付山水文扇形皿	長崎(龜山焼)	5客	日本・江戸後期	(各)高2.4 幅21.4
56	赤絵龍文柏葉形筆洗	京都	奥田穎川作	日本・江戸後期	高8.3 全長23.8
57	五彩双龍文小壺	景德鎮窯	「大明萬曆年製」銘	中国・明後期	高4.8 胴径7.5
58	赤絵龍文盃	京都	青木米木作	日本・江戸後期	高3.2 径5.3
59	赤絵龍文盃			中国・明	高4.4 径6.3
60	青花鳥獸文角盃	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高4.6 幅6.5
61	祥瑞写染付結文形根付	大津(湖南窯)	永楽保全作 「於湖南陶鈞軒保全造」銘 「永楽」印	日本・江戸後期	高1.5 幅4.7
62	染付蜂龍図馬上盃		永楽保全作 2口 「應需大日本永楽造/六十一之内」銘 特別出陳 個人蔵	日本・江戸後期	高9.4/9.5 口径8.2/8.3

III. 鹿背山焼と中国陶磁

63	染付草花文碗	鹿背山焼	「鹿背山」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期	高6.1 口径11.4 底径4.2
64	染付山水丸文鉢	鹿背山焼	「大明成化年製」銘 特別出陳 京都国立博物館蔵	日本・江戸後期	高15.6 口径31.0 底径15.0
65	染付花鳥山水文水指	鹿背山焼	中川利三郎作 「於城南鹿背山雲洞製」銘	日本・江戸後期	高18.0 口径16.9
66	染付龍鳳唐草文鉢	鹿背山焼	「文斎」銘 2口 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期 一明治	高9.3/9.4 口径17.4/17.8 底径8.5/8.7
67	吹墨手鹿桜紅葉文鉢	鹿背山焼	「大日本南京志陶々翁需於鹿背山雲洞造之」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期	高4.7 口径27.5 底径14.0
68	赤壁賦刻字鉢	鹿背山焼	「永楽年製」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期	高9.1 口径16.1 底径6.9
69	赤壁賦刻字鉢	景德鎮窯	「永楽年製」銘 特別出陳 個人蔵	中国・清	高8.2 口径15.5 底径7.5
70	青花狩獵文水指	景德鎮窯	祥瑞	中国・明末期	高15.3 径23.0
71	染付人物文鉢	鹿背山焼	「大日本嘉永三年於平安南鹿背山製」銘 (1850) 特別出陳 個人蔵	日本・江戸後期	高9.7 口径18.3 底径8.1
72	染付仙人図鉢	鹿背山焼	「鹿背山」銘 特別出陳 京都・西念寺蔵	日本・江戸後期 一明治	高11.3 口径20.3 底径8.5
73	銅版絵付仙姑図皿	鹿背山焼	特別出陳 京都・西念寺蔵	日本・江戸後期 一明治	高3.0 口径15.6 底径9.3
74	染付雲龍図盃	鹿背山焼	「村中のおかげで窯も辰之年 忠七 嘉七 為楽 ことな」銘 明治元年(1868) 特別出陳 京都・西念寺蔵	日本・明治	高3.2 口径6.5 底径2.5
75	染付御神酒德利	鹿背山焼	「鹿背山為楽造」銘 2口 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期 一明治	高8.0/8.1 口径1.9/2.0 底径3.7/3.8
76	染付詩文花卉山水文六角火入	鹿背山焼	「鹿背山夏無造」銘 特別出陳 個人蔵	日本・江戸後期 一明治	高9.9 口径10.7 縁厚0.9
77	染付詩文山水文碗	鹿背山焼	「神國皇南鹿背山製」銘 嘉永5年(1852) 特別出陳 個人蔵	日本・江戸後期	高7.1 口径7.6 高台径5.5

番号	名称	窯	摘要	国・時代	法量(cm)
78	祥瑞写染付仏手柑鈕蓋物	鹿背山焼	「平城南鹿背山」銘 特別出陳 京都国立博物館蔵	日本・江戸後期 -明治	高11.2 口径11.8 底径4.7
79	祥瑞写染付仏手柑鈕蓋物	鹿背山焼	「平城南鹿背山」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期 -明治	高11.4 口径14.5 底径6.5
80	染付捻文鉢	鹿背山焼	「平城南鹿背山」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期 -明治	高7.9 口径20.4 底径7.5
81	染付捻文鉢	鹿背山焼	「大明成化年製」銘 特別出陳 木津川市教育委員会蔵	日本・江戸後期 -明治	高9.2 口径23.8 底径9.2
82	青花捻文盃	景德鎮窯	「大明弘治年製」銘 古染付	中国・明末期	高3.2 径6.8
83	青花捻文盃	景德鎮窯	「大明成化年製」銘 古染付	中国・明末期	高4.5 径9.5
84	染付蓮弁文高坏	鹿背山焼	「海住山／御膳講中／瓶原郷／九ヶ村」 「鹿背山製」銘 5口の内1口 特別出陳 京都・海住山寺蔵	日本・江戸後期 -明治	高17.8 口径20.0
85	染付磁板	鹿背山焼	「恋こかれこがる鹿のこたまにて 向ふの 鹿で山がなくなり」讀 「毛利茂登」銘 「森」 「斎」書印 特別出陳 個人蔵	日本・江戸後期 -明治	22.8×16.0 厚1.0
参考 出陳	髷米古瓷譜		木村助次郎編 芸艸堂・だるま屋 大正10年 (1921)刊 紙本石版刷	日本・大正	26.4×18.2

展 観 内 容

白地に青い文様が鮮やかに映える中国の青花磁器は、輸出されて世界各地で愛好され、また製陶や文化にまで大きな影響を及ぼしました。日本においても、江戸時代初めに青花を手本にして染付が誕生し、江戸時代後期には京都でも磁器や中国陶磁の写しが作られるようになります。江戸時代後期に京都を中心に活躍した陶工である青木木米(1767-1833年)は中国磁器写しに秀で、古染付や祥瑞を巧みに写した作品を数多く残し、また永楽保全(1795-1854年)も祥瑞などの中国陶磁写しを精力的に行いました。

京都府木津川市鹿背山では、江戸時代後期から明治時代にかけて、中国・明～清時代の青花を写し、精緻な文様が描かれた質の高い磁器として鹿背山焼が焼造されました。本展覧会では、当館が所蔵する鹿背山焼「染付花鳥山水文水指」や中国陶磁、日本の染付磁器とともに、西念寺や海住山寺、木津川市教育委員会、京都国立博物館などが所蔵する鹿背山焼を特別出陳し、中国の青花の日本での受容と染付の展開を探ります。

表紙/No.67 吹墨手鹿桜紅葉文鉢

特別講演 3月14日(日)午後2時・講堂

「鹿背山と鹿背山焼」

西念寺御住職 田邊英夫氏

日曜美術講座 2月28日(日)午後2時・講堂

「鹿背山焼にみる中国陶磁の要素」

当館学芸部課長 瀧 朝子

講座 美術の窓 3月7日(日)午後2時・講堂

連続講座「広重一風土と旅情を描く一」第1回

「広重一生涯と画業(前編)」

当館館長 浅野秀剛

(ともに参加無料、ただし入館券が必要)

大和文華館 〒631-0034 奈良市学園南 1-11-6・近鉄奈良線<学園前駅>下車 TEL(0742)45-0544

FAX(0742)49-2929

《次回展覧予定 2021年4月9日(金)～5月16日(日) 桃山・江戸文化の輝き》

特別企画展

中国青花と染付磁器

— 京都の鹿背山焼 —



2021年2月19日(金)～4月4日(日)

大和文華館